

第 3 回 館山市議会定例会会議録

(第 5 号)

1 平成3年9月20日(金曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 28名

1番 秋山 光章	2番 増田 基彦
3番 島田 保	4番 斉藤 実
5番 宮沢 治海	6番 植木 馨
7番 鈴木 順子	8番 永井 龍平
9番 脇田 安保	10番 庄司二三男
11番 山崎 雅己	12番 岩村 勝弘
13番 榎本 春光	14番 小宮 利夫
15番 山中金治郎	16番 鈴木 勝美
17番 鈴木 忠夫	18番 日下 君敏
19番 川名 正二	20番 生稻 陞
21番 神田 守隆	22番 福原 勤
23番 石井 昌治	24番 石井 輝久
25番 流山源次郎	26番 辻田 実
27番 横溝 功	28番 飯田 義男

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市長 庄司 厚	助役 小幡 清之
収入役 渡辺 弘	市長公室長 佐藤 輝雄
総務部長 二通 英雄	民生部長 佐藤 澄雄
経済部長 脇田 元始	建設部長 伊東 衛
水道課長 鈴木 信一	教育委員会 福原 修 教 育 長

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一	事務局長補佐 土橋 康彦
書記 鈴木 哲	書記 鈴木 修一
書記 加藤 浩一	

1 議事日程（第5号）

平成3年9月20日午前10時開議

- 日程第1
- 認定第1号 平成2年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について
 - 認定第2号 平成2年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について
 - 認定第3号 平成2年度館山市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について
 - 認定第4号 平成2年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について
 - 認定第5号 平成2年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について
 - 認定第6号 平成2年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について
 - 認定第7号 平成2年度館山市国民宿舎事業特別会計収支決算の認定について

開 議 午前10時04分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数28名、これより第3回市議会定例会第5日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第1、認定第1号乃至認定第7号平成2年度館山市一般会計及び特別会計決算を一括して議題といたします。

質疑応答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。なお、発言の際はページをお示し

くださるようお願いいたします。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

(21番議員神田守隆君登壇)

◎21番(神田守隆君) 認定の第1号平成2年度一般会計決算についてお尋ねをいたします。私の質問は事項別の明細に沿って行っていきたくと思います。

まず、歳入であります。23ページお開きいただきたいと思います。使用料及び手数料のうち、諸証明手数料として397万二千余円が歳入がされたということになっております。このことに関係をいたしましてお尋ねをいたします。年金受給者の現況証明の手数料として200円を徴収しておりますが、全日本年金者組合などの無料化を求める運動の結果、神奈川県、埼玉県では全市町村で、東京都では千代田区を除く全市町村で既に無料化を実施、または実施する予定とのことであります。県内29市のうち、既に21市が無料化を決めているということでもあります。近隣では、鴨川市でも実施ということを知っております。千葉県内80市町村の中でもかなりこの無料化が進んでいるのではないかというふうに思うわけですが、こうした無料化の動向について市はどのように把握をしておりますか、また市として今後この年金受給者の現況証明手数料無料化ということについてどのようにお考えになっているのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、99ページであります。99ページの最初に房総リゾート地域整備推進連絡協議会負担金10万円ということでございますが、これに関連をして市のリゾート開発についてのお考えをお尋ねをしていきたいと思うのであります。この問題については、行政一般質問におきましても何人かの方々から質問がされました。市民にとって大変関心の深い問題でもあります。行政一般質問における御答弁によりますと、いわゆるおかの開発について太陽海岸平砂浦計画については既に内協議を終えて事前協議に進んでいるとのことでありました。また、南たてやまマリナーパーク計画については内協議に入ったとのことでありました。いずれも海の開発については置き去りにされ、まだめども立っていない中でおかの開発——すなわちゴルフ場の開発ばかりが進行して

おります。これはリゾート開発が結局はゴルフ場だけの開発に終わるのではないかと私が心配し、危惧していた事態に進んでいるのではないかと思うのであります。館山市のゴルフ場開発の指導指針では、ゴルフ場は複合開発の場合だけを認めるということでゴルフ場だけということはありませんということになっておりましたし、これまでも再三そのように御答弁がされてまいりました。結果的にそういうことになってしまったでは許されません。私のこれまでの質問に対しましても、海の開発と一体のものとして進めるという立場を強調されてまいりました。この立場はどこに行ったのでありましょうか。内協議、事前協議と進む中でちゃんとした歯どめがあるのでありましょうか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、3月の市議会で館山レインボータウン計画についてはオークエンジニアーズ、大林組が撤退を表明したことで、文字どおりこの計画はその名のとおりにじのまちとしてにじのようにはなくなり消えてしまいました。この撤退の原因については、結局地権者の理解が得られず土地の買収ができなかったことだと新聞等でも報道がされております。この原因についてどのように受けとめられているのか、御説明をいただきたいと思います。

リクルート社が発行する住宅情報誌編集の「欲しいリゾート」と題する雑誌がありますが、ここに館山市塩見の別荘用物件が紹介されておりました。地目は原野で4メートルの道路がついているとのことですが、販売価格は坪単価35万1,000円であります。民間企業によるリゾート開発は土地価格が2万円を超えたら採算性から立地が困難になると言われてまいりました。実際そのとおりになりました。現実にもそうした値段で土地が取引されているのに、地価の監視区域ということで著しく低い価格での取引を強要することとは不可能なことだと思います。そこでお尋ねしたいのは、監視区域にかかわる取引の指導価格はどのようにになっているのか、御説明をいただきたいと思うのであります。例えば、1,000平方メートル以下の取引であれば自由に取引ができるようになっておりますが、1,000平方メートルを超えると届け出をしなければならず、その際に指導を受けることになっております。

1,000平方メートル以下なら35万で取引ができるが、1,000平方メートルを

超えると1万か2万、その程度でしか取引が事実上できないというようなことでは著しくこの取引価格がかけ離れている現状があるのではないかと思いますのでありますが、この実態がどうなっているのか、御説明をいただきたいと思うのであります。

次に、102ページであります。河川費についてであります、河川の護岸工事費として6,774万九千余円を支出しております。決算にかかわる主要な施策の成果に関する報告によりますと、蟹田川の護岸工事などをしたとのことではあります、6月市議会ではこの蟹田川について下流部に埋め立てがされヒューム管で流すようになっているが、このため川の流れが阻害され水害の原因になっている、このヒューム管を撤去するよう求めたところでありましたが、市としてもこの問題について県土木に対策を要請していくとのことでありました。この問題については、我が党の小柴県会議員も現地調査に入るなどし、我が党としても早急な対策を求めてきたところであります。その後県土木との折衝ではどのようなになったのか、御説明をいただきたいと思えます。

次に121ページ、中学校費の中の負担金補助及び交付金の中で、学校災害賠償補償保険料10万2,957円及び日本体育学校健康センター共済掛金150万1,260円が支出されております。この問題に関連をいたしまして、特に館山一中の大村良太君の死亡事故を念頭に置いてこうした事故の再発をなくすためにその原因や対策をどのように考えておられるのかについてお尋ねをしてみたいと思います。質問に先立ちまして、大村良太君の御冥福をまずお祈りをするところであります。

さて、中学校における部活動については、その責任のあり方などさまざまな問題点を持っています。こうした事故が起きただけに、これらの問題をどう考えるのかということは大変な切実さを持った問題かと思えます。中学校における部活動はどのくらいの事故を起こしているのか、お聞きしたいと思うのであります。具体的には、121ページの学校健康センターは学校管理下の事故についての共済給付事業を実施しておりますが、この件数は年間どのくらいあるのか、そしてそのうち部活動中のものはどのくらいの割合を占め

るのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、大村君の死因については急性心不全とのことで、学校では不可抗力であったと言っているとのことですが、本当にそうでしょうか。激しい運動をして問題がないのかどうか、必要な事前チェックをするというのは当たり前のことになってきております。事実に心電図の検査がやられて心臓の機能に問題がないのかどうかの事前チェックはできたはずであります。それが実施されていれば十分事前にチェックされていたことも考えられるかと思っています。市の心電図検査はどのようなになっておるのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、大村君が倒れたのは6時10分前ほどのことであったとのことですが、倒れたときの最初の応急処置は養護教諭が対応できればよいのですが、このときは養護の先生はいなかったとのことですが、勤務時間外でありますからこれはいなくても当然かと思っています。部活動中の事故が大変多いと言われているにもかかわらず、この部活動は毎日日没まで行われるとか、また日曜、休日の練習や試合など通常の勤務時間以外に部活動が行われることが大変多くなっております。部の数もかなりありますし、とても養護教諭の手に余るという実情ではないかと思うのであります。このことは学校としても子供の安全に対する応急の処置が十分とれないもとで、もともといわば責任のとれない体制のもとで行われているというのが部活動の現状ではないかと思うのであります。この部活動における養護の体制がどのようなになっているのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、大村君は大変に蒸し暑い日の練習の終わりに課せられたグラウンド9周を回り終えて倒れました。かなりの練習をした後さらにグラウンドの9周というのは果たして適切な運動量であったのか、大変に疑問であります。9周というのは、9点差で男子が女子に負けたから負けた男子が点差の9周を命じられたのだということを聞きます。これが事実とすれば、子供にとって過大な運動量がこんなことで決められたりするなどという全く信じられないことであります。中学生の時期は心身ともに急速に成長する時期であり、成長期であるだけに大人の練習方法をそのまま持ち込めばかえって害になる

ことがたくさんあります。中学時代の間違った練習方法 — 特に過大な練習量のために腰を痛めてしまい一生苦勞するということが珍しくありません。体力を鍛えるはずのものが健康を損ねているとすれば全く逆効果であります。さまざまな運動競技における能力というものは三つの要素からなっていると言われます。第1は神経系の能力で、運動の巧みさなどの技術、調整する能力であります。第2の要素は、呼吸循環器系の持久力 — いわゆるスタミナであります。第3の要素が瞬発力で、筋力系の能力であります。そして、これらの能力の最もよく発達する年齢時期が違うということでもあります。中学生のころは第2の呼吸循環器系の発達がピークを迎える時期であります、まだ筋力の発達の時期ではありません。十分な筋力がないために過重な運動量は骨折などのけがを多く発生させます。過大なこれらの訓練はかえって子供の健康を損ねることになる場合が多々あるのであります。日本体育協会の調査によれば、子供の場合練習時間が週14時間を超えると急激に障害、外傷がふえるということでもあります。また、年間の試合数が25を超えるとやはり外傷、障害が急激にふえるという調査もされております。中学生の部活動の量についても科学的な研究が既に行われているのであります。これらの危険を積極的に学び今後の指導に生かしていくのか、これが問われているかと思うのであります。中学生の心身の発達段階と運動量についてどのようにお考えになっておるのでありますか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、43ページに戻りますが、お聞かせをいただきたいと思います。議会費の中に職員手当等の節がございますが、この中に期末手当、勤勉手当の欄がございます。同様な節は各款項にございます。この2年度からいわゆる期末勤勉手当の役職加算制度が始まりましたので、この内容についてお聞かせをいただきたいと思うのであります。この制度については、特に現業分野の職員には加算がつかなかったり、ついても率は低いなど、一般職との新たな差別を持ち込むものとの問題がありました。支給の現状はどのようになっていますか、また現業職員の支給の改善についてはどのようにお考えになっているのか、お聞かせをいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

まず最初に、年金証明手数料の無料化についての問題でございます。無料化につきましては、千葉県80市町村のうち35市町村が実施しているところでございます。年金証明にかかる事務手続の簡素化について、全国国民年金協議会連合会及び全国連合戸籍事務協議会を通じまして厚生省に対し要望しているところでございますが、館山市におきましても今後検討してまいりたいと考えております。

次に、大きな第2の房総リゾート地域整備促進協議会負担金についての小さな第1点目、事前協議や内協議に進んでいるとのことだが、ゴルフ場だけの開発にならないかとの御質問でございます。ただいま進めております県との大規模複合開発事業に関する内協議や事前協議は、ゴルフ場を含みます山間部の開発計画でございます。海浜部の計画につきましては、当初計画の推進に困難性が生じたので、その実現化に向けて関係機関や地元関係者並びに開発事業者と協議を進めているところでございます。

次に、小さな第2点目、大林組の撤退の原因は何かとの御質問でございますが、企業として用地の取得に困難性があると判断したためと伺っております。

次に、小さな第3点目、監視区域の指導地価は幾らかとの御質問でございますが、国土利用計画法に基づきます土地取引の届け出につきましては当事者間の私権にかかわるものであり、公開すべきものではないと県から指導されておりますので、御理解いただきたいと存じます。

次に、大きな第3、蟹田川の改修につきましては昭和62年度から防衛施設庁の補助を受けまして改修を進めており、平成3年度で河口から宮城地先合流地点まで完成予定でございます。合流地点から上流の改修につきましても、議会並びに地元住民の皆様よりかねてからの御要望があり、館山市といたしましても住民の生命、財産を水害から守るため、次年度以降も県の補助を受けまして引き続き改修を進めていきたいと考えております。

大きな第4の小さな第1から第4まで学校教育、部活動に関する問題でございます。教育長より答弁いたします。

次に、大きな第5の期末手当、勤勉手当の役職加算の支給の現状はどうかとの御質問でございますが、平成2年度におきましては行政職給料表8級の者が100分の20、7級の者が100分の15、6級の者が100分の10、5級、4級及び3級の一部と教育職給料表の2級の一部の者が100分の5をそれぞれ支給いたしました。支給割合は、一般会計の一般職464人中248人で53.4%、全会計の一般職ですと513人中275人で53.6%の支給率でございます。現業職につきましても、3級の一部に役職加算の支給をいたしております。

次に、支給の改善につきましての御質問でございますが、現在検討中でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） 人命尊重を第一の課題といたしております教育の場におきまして、大村良太君のような不幸な事件が起きたことはまことに断腸の思いでございます。大村良太君の御冥福を心よりお祈りし、二度と再びかかる事故が起きないように万全の備えをいたしたいとかく考えております。

お答えいたします。学校健康センター共済の給付件数、部活動中の件数につきましての御質問でございますが、平成2年度の市内中学校の災害給付件数は164件となっており、そのうち部活動中の件数は74件で45.1%となっております。

次に、小さな2でございます。心電図の検査についての御質問でございますが、心電図検査は財団法人千葉県医療センターに検診業務を委託し、小学校1年生及び中学校1年生を対象に検査を実施しており、平成2年度から教職員の検査もあわせて実施しております。実施時期につきましては、財団法人千葉県医療センターにより日程の割り振りがなされておりますが、安房地方の検診は年度後半になっておりますが、今後検診日程の繰り上げ等につき

まして安房郡市の各関係機関と連絡をとりながら財団法人千葉県医療センターに要望してまいりたい、このように考えております。

小さな3、養護の体制と部活動はどのようになっているかという御質問でございますが、養護の体制につきましては勤務時間後も養護教諭が部活動に参加している生徒たちのために自主的に活動をいたしております。試合につきましては、公式大会の場合は主催者の責任において対処しております。日曜、祭日の部活動につきましては、養護教諭の配置は現在なされておられません。なお、授業や部活動に限らず、安全指導、管理につきましては一部の教職員だけでなく全教職員がそれぞれの立場で救急措置のできる体制や対策を講じておりますが、さらに一層安全対策に努めてまいりたい、このように考えております。

次に、小さな4、中学生の時期の心身の発達と運動量と質についての御質問でございますが、心身の発達の著しい中学生の時期は、運動、休養、栄養の3つのバランスに留意することが大切であります。特に、運動を行うときは、強さ、時間、回数 of 3つの要素について配慮することとされており、個人差に応じて指導とその内容のあり方に留意することとされております。各中学校では、適切な部活動を展開するためにこれらのことに留意し各部の年間指導計画を作成し、それに基づいた練習を実施いたしております。

答弁終わります。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 年金証明の手数料の無料化については、今後検討するというようなお話でございます。80のうち35市町村ということで、県内でも半分になんなんとする市町村がもうそういう状況だ。東京都だと全部の市町村のうち千代田区だけがどういふわけだかしていないんです。どういふわけだかわかんないですけども、千葉県における千代田区にならないようにしていただきたいなと思うんですが、今後検討するということですから、十分新年度の予算含めてそういう中で期待をしていきたいと思っております。

リゾート開発の関係であります。現在海浜部についてはいろいろ困難があるということで山間部の開発を進めているというお話で、それは市として

はあくまでも両方をやっていきたいんだ、こういうことであろうかと思うんですが、これは相手のある話ですから、ざくばらんなどところ言って企業にとっては最もやはり採算のいいところ——これはやはりゴルフ場、あるいはリゾートマンション、こういうところかと思うんです。採算の悪いところはできればやりたくないというのは、これは経済原則から言って当然のことだろうと思うんです。しかし、市は複合開発でなければ認めませんよ、企業にとっておいしいところもありますよ、しかし苦いところもしっかり食ってくればおいしいところもやりませんよというのが、これまでの市のってきたこの問題についての対応だった。また、これまでの説明だったと思うんです。ところが、今は海の方は県の方のいろんな絡みがあって開発が進まなくなっているという中で、事実上おかの開発ということで進んでいくんだとすれば、先においしいところ食べさせますよ、しかし後で苦いところも食べてくださいよということが、果たして言っても企業がそれを実行するのかという問題が当然であろうかと思うんです。それについてはしっかりとした歯どめがあった上での話なのかどうか。言ってみればおいしいところだけの食い逃げになってしまって、ゴルフ場ばかりというようなことになりかねないんじゃないかという、この辺が一番不安なわけです。市はその辺についての歯どめをしっかりと持っているんだということがあるのかないのか、そこがお聞きしたいんですけど、先ほどの御答弁ではどうもはっきりしなかったんで、その辺どう考えているのか、お聞かせいただきたいと思います。

次に、指導価格の問題については、これは公開できない、そういうことなんですが、しかし土地の価格というのは非常に、隣が幾らで売ったらじゃ幾らというふうに非常に確かに危険だ。個人の権利にかかわるものだと言いながらも、土地の価格というのは非常に公共的な性格持っていますから、だから公示価格もあるし、きょうの新聞ですか、基準地価格も発表されているんです。隣が幾らで売ったかというのが一番気になることなんです。ですから、私も具体的に言っているわけで、35万で実際に売り出されているわけです。大変なことだなと思って、改めて今の土地の高騰の現状というのは大変なことだというふうに思ったわけで、そうすると著しくかけ離れているんじゃない

いか、現況が。そうすると、違ったこととお聞きしたいと思うんですが、そうすると指導価格というものはどのような基準とか考え方——具体的な価格が言えないならばこういう周辺地価にかなり近い取引価格や何かを含めて検討されるものなのかどうなのか——そういうことをしたらとてもじゃないけど現実にはもういわゆるリゾート開発は成り立たないと思いますけれども、その辺の指導価格の考え方はどういうところにあるのか、そこいらの話はできないんですか。

それから、河川の問題で蟹田川の関係ですが、次年度以降引き続き改修を市として行っていく、6月の議会では県の責任でというお話であったようでありましたけれども、市が責任を持って県からも助成をいただいてやっていくというようなことでそれぞれ話が進んでいるということで了解をいたします。

次に、学校の大村良太君の事故にかかわる問題ですが、年間164件中学生の場合には共済給付の事故があった。このうち74件、約半分ですか、45.1%と言いましたか——ということで、学校事故の半分弱、これが部活動だということは大変重大なことだなということを思うんです。私が調べた資料ですと——これは全国的なものですけれども、1974年ですと部活動中の中学生の場合には20%です。それが83年には32%。10年たらずの間に10%ぐらいもう部活動における事故が全国的にも大変ふえている。館山市の現状はさらにそれよりもはるかに高い45%ということでありますから、館山での学校の事故の中で部活動の占める割合が極めて高くなっている現状があるというふうに今のことから理解をするんですが、そうすると学校における災害、事故を未然に予防していくという場合には、この部活動における問題点、これを具体的に把握をしながら、これに対する指導をしていくということが中心にならざるを得ないと思うんです。したがって、こうした部活動における問題点——何がこんなに多くの事故の原因になっているのか、そこに共通した原因はないのか、運動量が適切なのかどうなのか、こうした分析をされたことが具体的にありますか、これについてどのようなお考えを持っておられるでしょうか。中学生の場合には非常に多いのはやはり骨折にかかわる問題ですとか、

あるいはひざの故障、こういうことが非常に多いわけですが、これらは適切な指導のもとではかなりの部分は防げるはずの問題だろうと思いますので、こうした分析があるかないか、そしてあるとすればそれについてどのようなお考えを持って対応をされてきたのか、お聞かせをいただきたいと思います。

それから、次に大村君の死因という問題は、直接的には急性心不全ということでありましたから心臓にかかわる疾患だろう。急激な運動の負荷が心臓の負担をもたらしていったのではないか。医学的な見地からどのような説明をされるのかいろいろあるかと思いますが、そうした心臓の問題だろう。これについては、現在千葉県医療センターにおいて県内の小学校1年生や中学校1年生の心電図検査を行っているということですが、安房郡においては実際に行っているのは年度末だ、年度の後半だということですが。大村良太君の場合にはこの心電図検査はされていなかった。もし——これはもしということになりますけれども、4月乃至5月入学した時点でこうした検査が行われてそこでチェックがされていたんだとしたらば、未然に防げたことも十分考えられることではなかったかと思うんです。年度の後半ということで、例年ですと2月ごろやるなんていう話も聞きましたけれども、ということは中学校3年間のうちほぼ1年近い間は何もわからずに運動をしているということになるわけですから、これは大変おっかないことだなと思うんです。実際にこれまでやられた心電図検査の結果、精密検査が必要だということで行われた件数がどれくらいあるのか、心電図検査の結果、チェックをされた子供の数がどのくらいあるのか。ということは、その人数の子供というのは1年近い間そういう心配があるにもかかわらず運動をしてきたということになるわけですから、知らなかったということでは済まされない問題を行政としては考えなきゃならないんじゃないかと思うんです。恐らくこれが大村良太君の場合でも心電図検査があれば何らかの兆候が出たということも考えられないわけじゃないと思うんです。そういうことでこの精検の人数がどのくらいいたのかどうかということをお聞きしたい。そして、そういう子供たちがいたことに対してどういうふうにか考えるのかということです。

それから、3つ目の問題は、養護の体制について学校の先生の自主的な努

力ということで教育長は御答弁されました。それは教育長がそういうふうに答弁するのよくわかりますけれども、しかし部活動における養護の体制というのはそうした教職員の自主的な努力ということの範囲ではもう対応できないような大きな問題を持っているんじゃないだろうか。これはさしあたって先生に努力してもらわなきゃならぬということはそれはそれとしてわかります。ですから、先生に十分な応急処置についての研修もしてもらおうとか、そういうようなことはそれはそれとしてわかります。しかし、今の部活動の現状では学校事故の約半分がそういう部活動中の事故だ。これが半分を占めているわけですから、そういう状況のもとでこの養護の体制というのはもっと根本的な考え方なりをしっかりとしないと子供の安全が守れないという問題を持っているんじゃないか。あるいは、そこから部活動についてのやはり考え方というものを考え直さなきゃいけない面があるんじゃないかなと思うんで、そこらについてどのようにお考えになっておるのか、お聞かせいただきたいなと思います。

それから、私は今度の事故のいろんな話を聞く中で、グラウンドを9周するように言われて9周した——何で9周、また随分半端な数だ。10周とかというのなら切りの数だからと思って、9周ということにちょっとこだわってなぜなのかなということをいろいろ尋ねた中で、9点差で負けたから9周だったんだということで「えっ」と思ったんです。私はそれは事実かどうかということで、事実とすれば大変大きな問題を持っているんじゃないかなと率直に思いました。クラブにおける指導ということでは、子供の体力だとかそのときの状況だとかいろいろな問題を配慮してやらなきゃならないことだろうと思うわけですが、非常にスポーツにおける科学性——非常にとすると経験で我々がスポーツを指導してしまうということがありますけれども、私どもが子供のころに教わった運動の練習方法は非常に非科学的だということで、いろいろとああそういうことかということで大分いろいろな批判を受けます。それこそ私らのころは一生懸命になってウサギ跳びなんかやったけど、あんなばかなことをやる人はだれが今いるんだというようなこと言われるようにがらっと変わってしまっている。これもやはりスポーツに関す

る科学的な訓練についての見地というものが普及してきていることだろうと思うんですが、そういう意味では学校の部活動の先生の指導の上で、スポーツ科学ですとか、あるいはスポーツ医学ですとか、こういうものについて研修をする機会といいますか、これが十分ないと先生も自信を持って子供たちを指導していく、適切な指導をしていくということがやはり難しいんじゃないかなという点を思うんです。こういう点ではスポーツ医学やスポーツ科学についての研修というのがどのようになっているのか、十分されているのかどうなのかという、こういう危惧を感じるわけです。9点差で負けたから9周しなさいという、そこにはそういう科学性というものが私は感じられないから、これはどうなっているんだろうかということを感じたわけなんです。そこをどういうふうにお考えになっているのか、お聞かせをいただきたいなと思います。

それから、職員の役職手当の問題であります、今後現業職員等についてその改善について検討中であるということでもありますから、その検討の結果を待っていききたいなと思います。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 海部の開発についてでございますが、県の方針もございまして同時進行ができなくなった状況でございますが、事業者からは改めて海浜部も積極的に進めるとの申し出もございます。したがいまして、信頼関係に基づきまして進めておるところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 指導価格の設定の仕方についての御質問でございますけれども、指導価格は国土法に基づく土地取引の届け出の予定対価が公示地や基準地の価格や近傍の取引事例と比べて著しく適正を欠くと思われるときに減額の指導や勧告を行う際に取引当事者に通知するものでございます。その設定——いわゆる算定に当たっては、公示地や基準地を基準として設定することはもとより、近傍類地の取引価格等を十分考慮して設定されること

になります。それから、届け出の必要面積でございますけども、このよう
になっております。都市計画法に基づく用途地域は 200 平米以上、それから房
総リゾート地域の整備構想に基づきます重点整備地区については 300 平米以
上、その他のものについては 500 平米以上になっておりますので、御了解願
いたいと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） お答えいたします。

部活動中の事故の割合が多いんじゃないかというような御質問でござい
ますけども、なるべくそのようなけがが起きないように、あるいは骨折等、捻
挫とか、こういうことが起きないようにということにつきましては、担当の
先生方は万全の気持ちで努力をいたしておるわけでございます。

このような割合が 45. 何%あるということについて分析をしたかどう
かということは、申しわけありませんけれども、分析はいたしておりません。
しかしながら、運動部の部活中の事故は多く発生しているということは私も
十分認識をいたしておりまして、このような事故が起きないようにあらゆる
配慮をする。例えば、生徒の顔、表情を見て疲れているかどうか、あるいは
きょうはどのような考え方で来ているかどうか、あるいは体の状態はどうな
のかということは絶えず指導者は考えておりまして、それほど私はむちゃな
練習をやっていないと考えているわけでございます。ただ、いつも私たちは
部活の指導 — 私もやったことございますけども、最近の子供たちはどうも
本質的に体が弱いんじゃないか。先ほど神田議員さんが育ったときとちょっ
と違うんじゃないかということをおっしゃいましたが、まことにそのとおり
でございまして、骨自体が何か非常に健全な発達をしていないんじゃないか
というようなことを考えております。それは衣食住あらゆる面から来ている
ものであろう、こう考えております。

それから、2 の年度末になって心電図の検査を行ってはいかんじゃないか、
まことに私もそう思います。答弁にも申し上げましたとおり、できるだけ早
く安房地方 — 医療センターで全県をやはり持っていますから、だんだん北

の方からやっておるようでございまして、南の方遅くなるというような結果になっているんじゃないかと思えますけれども、これはできるだけやっぱり早くやって、遅くなった場合は翌年の場合に早目にさせていただけるように、関係の機関と連絡をとりながら医療センターの方をお願いしたい、こう考えております。

それから、心電図のチェックを受けて異常があった者の数を把握しているかという御質問でございますけれども、これも私の方には報告ございませんので把握いたしておりません。

それから、全然そういうような何もわからないで運動なんか指導していいのかということでございますけれども、もう生徒につきましては健康診断を毎年やっておりまして健康診断表というのがございまして、それがもう必ず学年に送られてきまして——小学校から中学へ来るときはその健康診断表を送ってまいりますので、その生徒の健康状況につきましてはやはり長い間の小学校時代のいろんな状況等は——欠席日数とか、どういう病気したとか、こういうときに健康診断やったときはこういう状況だったということは詳細にホームルームティーチャーのところへ伝わってきておりまして、その資料に基づいてその生徒の健康状況を把握いたしておりますから、全然知らないままめっちゃくちゃに指導するということはないと考えております。

それから、部活動中自主的に健康管理する体制を、子供の安全について処置をとっているかということにつきまして、これは学校というのは先ほど言ったとおり子供の健康管理につきましてはみんな非常に真剣に考えておりまして、これはもう校長はもちろんのこと、もう体育の先生方あたりはほとんど保健の授業もやりますからそういうような若干の医療的な知識を持っておりますし、養護教諭だけが生徒の、あるいは児童の健康を管理しているんじゃないございまして、これはもう教職にある者としては子供たちの健康につきましてはある程度健康管理に関する知識、その他を絶えず研修等で補っていると考えております。

それから、スポーツの非科学性ということで御指摘いただきましたんですが、これまことにお言葉を返すようで申しわけございませんけれども、現在部

活動の指導をなされている先生方は昔の精神主義的な指導はなさっております。もうできるだけ人間、人体の構造、その他を十分把握しながら、科学的な感覚に立ちまして子供の安全、子供の幸せを中心とした部活動をしていると私は確信をいたしております。もう精神主義でめっちゃくちゃにこれやれというようなことは余りないんじゃないか。それをどうしたならばこの子供の技術が具体的に伸びるだろうか、あるいはこの子供の筋肉は少し弱いからこの筋肉を強くしなきゃならぬとか、あるいはこの子供は骨格がかたいから柔軟性をもう少し養成しようじゃないか、そういうような観点に立ちまして部活の指導に当たっているものと私は考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） やっぱりなんか心配なんです。企業との信頼関係でやっています、信頼関係でやっついてうまくいかなかったからレインボータウン撤退したんです。企業というのはこちらが幾ら信頼してもそろばんが合わなきゃやらないんです。そういうものなんです。だから歯どめが必要だと言っているんだけど、そこなんです。だから、それはないということなんだ、要するに。信頼しているだけだというんだから、ないですよということと言っているということだと私は受けとめるんですけども、だとすると今バブルが崩壊でこんなふうになってきていますから、ますます本当にもうかるところだけやってあとは知りませんということで、努力しますという空約束は幾らでもやれるでしょうけれども、そういう点はいかがなんでしょうか。

地価の問題については、具体的にはお話がなかなかできないようでありますから、話は次に移ります。

学校の問題であります、教育長さんは事故がこんなに多いけれども——多いことはお認めになっていきますけれども、これについての分析をされたりしたことはないということでもありますから、そして現場では一生懸命やっているはずだ、こういうことでもあります。しかし、現実には起きているということの事実から出発してここに何が問題があるのか、やはりよく調査をするということが必要になると思うんです。私はそういう点でぜひ、この分析はない

なんていうことではなくて、こういう事件が起きたからこそある意味では徹底して部活動の問題がないのかどうかということについてこの際きっちりとした分析もして、教育委員会としてのやはり考え方もきちんとした調査の上に立って進めていただきたいと思います。

それから、心臓の心電図検査の結果何人ぐらいの子供さんが要精検ということで、精密検査が必要だということで人数がわからないというお話でございましたけども、これ今決算をやっているわけですから決算の数字の中でわからないはずはないんで、私は事前に聞いたのでは10人だということでございました。3回目だからこれで終わりになりますから、そういうふうに具体的に心電図検査の結果、2月におたくのお子さんはちょっと心臓に問題がありそうだから、精密検査が必要だからと言われますと、精密検査をする間一生懸命運動やっていた子供が、ちょっとおまえ待てよ、1カ月か2カ月精密検査の結果が出るまでそのクラブ活動休ませるとか、そういうことをするわけです。するわけなんです。しているんですよ、実際。当然のことだと思うんです。けども、そういう子供が10人いるということは、2月に検査をしたということは4月から2月までの間は野放しだったということになるんですよ、その10人の子供について。いつ大村君のような事件が起きたとしても不思議でなかったことが現実には館山市で毎年繰り返されているということです。ですから、私はこれは突然起きた突然死だとかという表現についてはちょっと抵抗感じるんです。毎年それで結果的に精密検査をすると、成長期のことで大事はないよということの方が実際は多いようではありますけれども、しかしこの時期の問題というのがそういう点じゃ大変重要だと思うんです。

千葉県医療センターの方へ働きかけをしていくということでそれはもう当然なんですけれども、そうすると安房が先にやるとほかが遅くなるわけでしょう。そういう問題を持っているわけなんです。それでも安房はやってくれとは言います。教育長さんもそれ言うつもりでしょうよ、こういう事故もあったし早くやってくれ。しかし、そのことによってまたほかのところが今度どこかおくれるところが出てくるという問題持っているわけで、これはやはりもっと県レベルなりそういうレベルでの調整をもっと早い時期にできるよ

うに、子供が本当に — 特に中学生の場合には運動クラブでありますから、やるということになるとかなり激しい運動量を持つ運動になりますから、今のやり方、あり方をそういうクラブ活動に入る前の時期にやれる方法はないものだろうか。例えば、2月にやるんでしたら本当は6年生のときにやっちゃった方がいいんじゃないかと思うぐらいな話です。そうすれば、中学校でクラブ活動やるに当たってはもう検査の結果が出ているということになりますから、そういうことを含めて県レベルでこれは改善を強く要望していかないといけないんじゃないかなと思うんです。これは相当いろんな関係もあるかと思うんですが、そういうことも含めてぜひ御検討いただきたいと思うんです。

それから、養護の体制の問題についても、先生が一生懸命やられるという問題と — それは大事なことであるとだれでもそう思うんですけども、しかし今問題で私が言っていることはもっと根本的な問題としてこの部活動のあり方について — 例えば端的に法的な位置づけなんかもはっきりしていないという問題もあるわけです。ですから、学校教育という中で明確な位置づけをどうするかという — それもう国政レベルの問題含めてありますけれども、しかしまず第一には子供の安全という問題を第一に考えた中でやはりこの部活動の体制についての教育上の立場からの位置づけというものを教育長さんとしても — それは館山だけでできないという問題持っていますけども、どのようにお考えになっているのか、そこらのところをお聞かせいただきたいと思うわけです。

それから、スポーツの科学性というような問題で今の指導は精神主義的な指導はしていないんだと言われるんですけども、私はちょっと本当に額面どおりに受け取っていいかなという危惧を実際感じている。だから言っているわけなんで、日本体育協会の調査では練習時間が週14時間を超えると急激に障害がふえる。実際そのグラフがぐっとふえるんです。それから、年間25試合を超えるとやはり事故件数がぐっとふえるとか、こういうことが出されているわけです。そういうところからすれば、先ほど分析をしていないということでありましたけれども、年間の活動計画 — これは各学校からクラブ活

動についてのいろんな計画が出ているかと思うんですが、こうした計画の中で例えば週の運動時間が——クラブの内容によってもかなり違いがあるでしょうから、そういうことも配慮しながらどれぐらいやっているのか、過重でないのかどうなのか、それは具体的に調査すればわかることです。また、試合の数が著しく多くはないかどうかとか、子供の今の身体の状態からして負担になるかならないのか、具体的な調査をすればわかることなんです。ですから、そういうことを含めてきちんとやはり分析をされた上でいるならば、このスポーツの科学性ということについてああ十分そういう日本体育協会の調査結果に基づいて指導しているなということで納得もできるわけです。けれども、そういう話は伺えないわけです。ですから、研修制度、研修という点で、部活動におけるこうしたスポーツ科学だとかスポーツ医学について現在の先生は精神的な指導はしていない、十分にスポーツ科学やスポーツ医学の成果にのっとって指導をしているんだ、だからそれ以上もう研修なんか必要ないというふうなお考えだとすると、私はちょっと困るなと思っているんです。やはりもっとそういう点で部活動の位置づけを与えて、先生の研修なんかも十分考えられてはどうかと思うんです。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 中学校の部活動につきましては、御指摘のとおりいろんな問題ございます。まず一つは、教職員の勤務時間の問題でございます。それから、今おっしゃったように保健、安全面の問題。それからもう一つは、小中学校の体育連盟というのがございまして、これが恒例的に一つの大きな大会を催しています。そうしますと、やはり部活動は大会に出ていい成績を上げたい、上げるというのが一つの目標になってまいりまして、選手たちもそうなるわけでございます。そういうようないろいろの本来子供たちの、児童生徒たちの健康を高めるための活動であるべきものが、違った勝敗のみに追われるという、そういうような可能性もあるということは私も率直に認めます。それをじゃどうやってバランスをとるかというのが現在担当しております先生方の非常な悩みではないか。ただ、とにかくもう何も考えな

いままで勝負のみに邁進しておるということではないということは私は申し上げたいと思っているわけです。そういうところ十分考慮しながら、しかしながらまた選手が勝ちたいという欲望をどのようにして満たすか、勝てないかもしれないけども、やはり体は健康が第一だということをどこまでも押し通すかという一つの矛盾、しかもそれが勤務時間中じゃなくて勤務時間外のまた活動になるというようなことで、非常に部活動につきましては難しい問題絡んでおります。そういう問題につきましては、御指摘のとおり大いに今後とも検討を加えていっていききたい、また担当の先生方とも話し合いたい、このように考えております。

それから、心電図の検査で要注意と言われた方が10人いた。それ私が数を知らないということは私の方に連絡がなかったということでございまして、事務局の方には来ておるんじゃないかと思えますけども、そういう場合今までの私の経験ですと要注意になった生徒は必ずそれに対応する精密検査をやっているだろう——私はよくまだ確認していませんけども、また次の段階として精密検査を受けまして、必ず学校ではやらせておりますので、そういう対策はとっているんじゃないかと思えます。

それからもう一点、部活動の指導者の勉強の問題ですけども、これでいいということはありません。もうやはりこれは教師というのは教えることが学ぶことでございますから、自分でどんどん勉強するということはこれは教師の宿命でございます。もうどんなことでも、それは自分の——ただ単に体育だけの問題じゃございまして、自分の教科の問題にしても絶えず勉強していかなければ時代におくれてしまうわけですから、保健衛生上の問題についてはこれは毎年毎年勉強して、これからも永遠に部活動の問題等課題として考えているんじゃないか、こう考えております。教育でこれでよろしいでしょう、これでいいですよ、こういうようなことはございまして、もうケース・バイ・ケースで、個々の生徒によってみんなそれぞれ本来は教育というものは違っていかなきゃならない問題でございしますが、それをああいふ集団で行うというところに非常に教育自体の問題もあるわけでございます、でございますからもうこれで教育は終わりだ、ベストでございますよというこ

とは永遠にありません。絶えず多くの課題を残しつつ前進しているというのが私は教育の現状だろうと思っています。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 先ほど改めて申し出がございましたと申し上げたわけですが、山部の開発申請に先立ちまして海部もこれから十分に開発を進めますと書類をもって申し出をいただいております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質疑を終わります。

次、26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 通告した順序に従いまして御質問を申し上げますので、よろしくお願いいたします。

まず、1番目が50ページでございます。第2款6目13節の委託料です。この中のコミュニティセンター周辺利用計画策定業務委託料 749万円 ― これ1万円以下は切り捨てにしてこれから数字を述べますので、御了承いただきたいと思います。それと、富士ディーゼルの跡地利用計画策定業務委託料 599万円についてお尋ねをいたしたいと思うわけでございます。この2つの計画策定業務の委託はいつごろどういう目的でどういうところになされまして、そしてその結果がどのように活用されたのか、この点についてお伺いをいたしたいと思うわけでございます。こうした質問は非常に変則でございますけれども、変則な状況が今市と議会の間にあるということでございますので、そうした観点からこの問題を明らかにしていただきたい、このように思っているわけでございます。この両方の計画策定の調査につきましては我々何も知りません。富士ディーゼルの問題については、富士ディーゼルの跡地問題が大変問題になった中でもってこうだということが明らかにされた。それは私どもが考えていたものとは非常に遠いものであって、こういうことをなされておったのか、これじゃ大変だということになったわけでございます。それではもう既に遅いわけでございまして、そういう観点でこの2つの点につ

いては特に初歩的なものでございますけれども、私ども議員がそういう目的だとか、経過だとか、結果、成果はどうなっているかということについて決算の中で知らないということについてはもう本当に情けないというんですか、そういう状況でございますけれども、実際にこうしたものが明らかにされていない。富士ディーゼルの問題のときには、質問されていった中でもちびりちびりと小出しに出して行って全貌も明らかにされていない。これはもうどういうことかなというふうに思うわけでございまして、あえてこの2点については非常にこれからの市政の中に重要な関連を持つ問題でございますので、そうした点を明らかにしていただきたい、これが第1点目でございます。

第2番目が51ページでございます。19節負担金補助及び交付金の項でございますけれども、国際民族音楽フェスティバルの負担金が500万円支出されているわけでございます。これにつきましては館山市も大変な努力をされているようでございますけれども、この運営とそれから財政処理について若干いろんな問い合わせもございますし、そういう点について我々知る由もないのでこの際聞いておきたいわけでございますけれども、かなり市が中心になってやっているわけでございますし、予算も500万円出ているわけでございまして、このチケットが販売されているわけでございますけれども、通常こういう形のものですとむしろ負担金じゃなくて事業費の中で収入に入るかと思っておったんですけれども、収入にも入っていない。こういうことになってくると、この500万円を支出した受入団体——これは実行委員会であるようでございますけれども、市長もその実行委員長というんですか、そういう立場にあるようで、事務局も市の職員が担当しておるという状況でございますのでいいわけでございますけれども、そうするとこのフェスティバルのチケットの収入がどのくらいあって、そしてこの負担金がどのようにして繰り入れられて、そしてどのぐらいの総予算がかかったのか、そして内訳の大きいもの——例えば出演料だとかそういうものは幾らなのか、会場費は幾らなのか、ほかの運営費、事業費、そういうものもあるんだろうし、そういうものがおおむねどのぐらいかというようなことがどこの機関で明らかにされてきておるもの

なのか。私は一昨年大相撲を開催したわけでございますけれども、これは市の補助金は一銭もいただいておりません。その収支報告についてはかなりきちんと印刷物でもって当時の議員に全部に配るし、市の方にも配るし、町内会長の全員に配るということでもって 300冊印刷しまして、ほぼおおむねそういう形でもって配って収支を明らかにしてきているわけでございます。今回の場合には市の補助金は 500万円入っているわけでございますから当然そのぐらいのことはなされてしかるべきじゃないか、このように思うわけでございますけれども、こうした点からこの点の内容についてひとつ教えていただきたいと思うわけでございます。

3 番目に、68ページでございます。3 款 1 目 19 節の負担金補助及び交付金の中の地域ぐるみ福祉ネットワーク事業補助金、これが 666万出ているわけでございます。説明の中にもただ補助をしているということでございますけれども、この地域ぐるみの福祉ネットワーク事業というのは大変な事業でございます、福祉活動を進めていく中でもって非常に期待されているものでございますので、この補助金がそういう面でもって有効に使われておるのか、そしてこれだけの額でもって十分なのかどうなのか、こうした点について把握しておかなきゃならないんじゃないか、そして市としてもこれに対しては必要なものは全面的に援助をしなければならぬんじゃないか、こう思うわけございまして、こうした観点からこの補助金がどういう形でどういうところにどのような形でもって交付されておるのか、その内容について教えていただきたい、このように思うわけでございます。非常にこの福祉ネットワークというのは入り組んだ組織でございます。民生委員も、青少年相談員も、町内会長もいろんなのが入って、ボランティアが入ったりしてやっているわけですけど、それがどういう機関にどういう形でもって行われておるのか、ここら辺末端の組織まで十分行き届いているのかどうなのか ― これらの福祉団体のボランティアの方からも、私かなり何人からももう少し市の方でもってこうしたボランティア活動または福祉ネットワークの活動について活動費を増額してもらわないと困るというようなことを頼まれておりまして、十分それらについては議会の中でもって反映できるようにしましょう、こう来

ているわけでございますけれども、何かこの点については一括で出ているものですから少しそうした観点から具体的にこの内容について御説明をいただきたいと思います。

次に、90ページでございます。6款4目13節の委託料でございます。豊房育成牧場の業務管理委託料が2,637万円出ているわけでございます。これについて今この豊房の育成牧場の管理運営がどうなっておるのか、この点についてお伺いしたいわけでございます。私はかつてこれらの事業に携わっておりまして、この育成牧場を設置するときには設置してもらいたいということでもって要望をした方の一人でございますので非常に関心を持っているわけでございますけれども、1つは牛を預ける方の生産者の側にしてみますと、当初1月1万円の委託料だったんですけど、現在1万5,000円になっているわけですけども、この点については安くやってもらいたい、こういうことでしょうけれども、この点の状況はどういう状況になっておるのか。

それから、2番目には従来は市が直営であったわけでございますけれども、これを畜協の方に管理委託してここに管理委託料というのが出ているわけでございます。額としては2,637万でございます。これでもってかつて私は畜協の方からとても市の管理の委託料は安くて赤字でもってやっていけないというようなこともあって返上したいというようなこともありまして、それじゃ困るからということでもってかなり委託料の値上げ等もやりまして、かなり小康状態というんですか、非常にうまくいっているようでございますけれども、この点については委託料がこれで十分なのかどうなのか、畜協との間についてそういったトラブルなり、問題になっている点はあるのかないのか、この点についてお伺いしたいわけでございます。

ここに書いてある説明からいきますと委託頭数が1,200頭ということでございますから、館山市の場合には収容が常時100頭でございますからこれはもう完全に100%ということなんですけれども、100%結構なんですけれども、これ100頭では足なくて希望する農家というんですか、多くてとても頼みたいんだけどあぶれているという状況があるのか、そうしたらそれはどのぐらいのものなのか、それとも最近は酪農かなり停滞してきておりま

すので 100頭を集めるのに精いっぱいという状況なのか、そこら辺の最近の動向についてあわせて説明をいただきたい。

それで、これで持っていくますと収入の方は 1,800万円になるはずでございす。月 1万 5,000円でございますから、1万 2,000頭というんですから、掛け算しますと。そして、収入の方には 1,900万ということでもって、そのほか若干の収入というんですか、負担金が、諸経費等も入っていると思うんですけども、この差額はどうなっているのか。

そして、これと委託料の間にはかなりの額の差があるわけでございますけども、これはどういう形の — 本来でしたら人件費、その他については市の方でもって出しているわけでございますし、施設、その他のものについては全部出しているわけですから、ただ管理ということになるわけでございますので、そういう面では本来的には収入と支出とのバランスをとっていくわけでございますけども、これは徐々に崩れてきているわけでございますけども、この状況がどういう点に誤差が出ておってこの食い違いの額はどういう点に支出というか、委託されているのか、この点ひとつ明らかにしていただきたいと思ひます。

次に、96ページでございます。7款2目の13節委託料でございます。それから、その項の19節の補助金のところでございすけども、インダストリアルパークの基本計画の策定業務委託料が 772万円計上されているわけでございます。このインダストリアルパークは県の事業でございます。そういう中で、館山市がこういう基本計画を策定するというんですか、700万も出して、そしてこれを委託するということはどういうことなのか。基本計画でございますから、そのできたものが同時に事業は県でございますから県が受けてくれるのかどうなのか、こういう問題があるわけでございます。そこにまた — これはまだ事業実施に入っていないわけでございますから、どういうものをこれからやっていくかということについてはいろんな論議、その他もあるだろうけども、そうした点についてはむしろ議会等の中の特別委員会等の論議も必要じゃないか。市の方は庁内の中で十分検討して、庁内の中でもって検討した結果について富士ディーゼルの跡地の問題についてもみんな

処理されているようでございますけど、これはもう完全に変則でございますから、こうした大きな問題については――市会議員は個々は1人1人でございますけれども、大体1,000人以上の方から負託を受けてきているわけでございますから、それぞれの専門家もいるわけでもって1人が1人というわけじゃございませんので、こうした基本計画の場合にはやっぱり議員の意見というものもやはりまとめて、そしてもちろん庁内の優秀な職員の意見というものとこれをもう激論して1つの方向を出していくということではなかならないんじゃないか。これについてもどういふものかなされてどういふものになったかということについては、私も5期もやっておりますけれども、全く聞いておりません。大体こういうことやられておるんじゃないかというようなことだとか、時々そういう片鱗的なものが資料等に出てきていますけれども、その骨格だとか内容、委託先、そういうようなものについては聞いておりません。特に、私は去年は総務委員長やっておったわけでございますけれども、総務委員会の所管事項でございましょうけれども、そういうところについては全く相談もなければ知る由もない。非常に不正常的な状態だろうと思うわけでございます、私はそれはそれとして私の落ち度でもあったわけでございますから、ここでもってこれが県の事業主体でありながら基本計画を館山市はどうしてつくるんだ。それがどういう目的とどういう効果をもたらすのか、この点についてやはり明らかにしてもらいたい。本来こういう問題であればやはり総務委員会なり議会へかけて、こういうような基本調査の内容のものをやっけていきたいけれども、どうだろうかというようなことがやはり十分審議されてから委託していくという形をやはりとらなきゃならないと思うんですけども、その点についてはどのように考えておるのか、この点については先ほどの富士ディーゼルの跡地の調査委託等も絡んでやはり少し具体的に明らかにしていただきたいというふうに思うわけでございます。

そして、やはり同じこの項の19節の商工会議所の物産会館の建設促進研究補助金20万でございますけど、これ継続的に出ております。その成果がどのぐらい出ているのか、もうそろそろ結論を出して物産会館をつくってもらわなきゃいけないんじゃないか。私はもう商工会議所の役員の方から、もう今

回の選挙の中でもそうでございますけども、ひとつ物産会館を早急に市でもってつくってもらえないかというようなこと言われて、なかなかこれしょうがない。ほかにはかなり ― 物産会館館山にないんだ。商工会議所の中の一隅を使って何とかやっているけれども、本格的なものつくってもらいたい、これはもう大分前からそういう陳情等も受けておりまして、それを受けて前市長はとにかくじゃどういふものをどうしようかということについてこの物産会館の建築の調査委託費というの出たんですけども、これは毎年毎年ずるずる、ずるずると調査委託費だけ出しておいて済ましていくということについては余りいい傾向じゃない。もうそろそろこの辺で結論を出して、建てるものは建てるという形をとっていかなきゃいけないんじゃないかという段階に来ているわけでございますけども、そこら辺の状況はどこまで来ているのか、どの辺までめどがついてきているのか、この点についてひとつ説明をいただきたいというふうに思います。

次に、106ページでございます。8款の4目13節委託料でございます。ここに公園維持管理委託料の536万円が計上されているわけでございます。これ事業実施報告の中に見ますと、城山公園の梅園の管理委託料が121万、それから北条の中央公園の管理委託費が288万というのが説明欄にあるわけでございますけれども、どういふものを管理委託しているのか、どういふことになっておるのか。私は専任の職員もおりますからそれがやっていると思いましたが、こういう委託料がかなりのものがなされているものですから、するとこれがどの辺までどのようにやらされておるのか。市のあそこの職員、現業の職員との仕事の割合、それから内容、そういうものがどういふものか。そういった市の職員、専任の職員の仕事を補完するものなのか、全く別なものなのか、そこら辺の区分を少し明確にしてもらって、今後ここら辺の委託と現業職員との兼ね合いがどうなっていくかということ ― 場合によっては職員の増員等も考えなきゃならない面もあろうかと思しますので、そうした観点からこの点についてひとつ御説明をいただきたいというふうに思います。

それから118ページ、10款2目18節、これは備品購入費でございます。小学校の校用器具費1,331万円が計上されているわけでございます。これと同

じものが 112 ページの中学校費の中の 18 節備品購入費、これも全く同じ備品購入費が 122 ページ中学校のものが 422 万円計上されているわけでございます。この小中あわせて備品購入費についてどのような配分がなされておるのか。それぞれ学校別に額が配分されているわけでございまするけども、この配分方法、そしてその配分された金額でどのような内容のどのような備品が購入されておるのか、その主なものについて挙げていただきたいと思うわけでございます。

そして、私この点についてもやはりかなり現場の先生方から要望を聞くんですけど、館山市は一つの予算の割り当てだけでもって来るものですから、どうしても一度に全部買いたいんだけど、3 年とか 4 年ごとに分割して買っていかなきゃいけないので、どうも効果が上がらないんで、もう少しぼんと出してくればいいのか、ほかの町村ではこういう点についてはぼんと一括購入してくれるけど、館山市の場合にはどうもそういうのもって教育効果が十分果たせないという面もあるんじゃないかということを聞いております。具体的にはそれはどういうことかということについてはわかりませんので、主にどういうものがどういう形で買われておるのか。予算は配分が比例配分でございまするから、机なら机を買う中でクラスの机を 50 個変えなきゃならないんだけど、ことしは 15 個、来年は 15 個、再来年は 15 個とやっていきますと、その生徒がもう変わっちゃうという中でもって半分いいので半分悪いのなんていうようなこういう現象もあるということも言われているということでございまするけども、それはどうなのか。この備品の中でそういう形のものがほかにもあるのかどうなのか。こうしたことでもって教育効果が十分果たせないということになってくると大変なわけございまして、そういう点について説明をひとつしていただきたい。

次に、131 ページでございます。これ小中学校の体育振興委託料でございます。この点については先ほど神田議員の方から事故の問題について取り上げられたわけございまして、これは非常に大事だろうというふうに思います。その点については私は省略をいたすわけでございまするけども、この小中学校の体育振興の委託料がどういう内容でどういう方法でもって配分され

ておるのか、この点についてお伺いをいたしたいと思います。

と同時に、最近私は中学校の部活の成績がかつてのように余り思わしくないのでございます。館山二中の卓球とか剣道、柔道というものが入賞することもありますけども、全体的に館山市は最近レベルが落ちてきているということでございまして、この点はもう少しレベルアップをしなければならんんじゃないか。先ほど教育長の答弁の中でもって競技に勝つということが必ずしもいいか悪いかということも一つの観点としてあるということで、事故との関係で。しかしながら、私はスポーツというのはとにかくよりよい記録とよりよい勝負に勝つということがこれがもう本来の目的であって、そのことが一つの人間的な美であり芸術であると言われているわけでございます。ですから、100メートルを10秒切って走るということ、これは一つの肉体的な美であり芸術であるということでもって賛歌されているわけでございます。それがあるからこそ人間は自分の能力の、肉体の追求のために科学的なトレーニングとそして新しい記録への挑戦をしていく。このことがやはりスポーツの魅力であって、これがやはり芸術、また文化にもまさる文武という形の中でもってあるわけございまして、したがってそういう点でもって記録の悪い競技というのは、これはそういう面からいくと私は成績はよくない。そういう面ではやはり野球の試合でも勝つ方がいいんで、勝つためにどうするかということ——余り勝負にこだわると弊害が出てきて事故を起こすとか、それから能力のない人が非科学的な練習でもって強くさせようという中に問題があるんだけど、しかし能力のある人を能力に応じてそれを伸ばしていくということは非常に大事なことであって、特に学校の部活動の中についてはその点がきちんといいないと事故も起きるし、無理があるんであって、優秀な能力のあるのは部活動の中でもって優秀な指導をする中でもってやっぱり記録は伸ばしていく、これが出てくれば私はかなりな成績が出てくるわけございまして、そういう点について——私はスポーツ少年団持って20年間やってきたものですから、多少ちょっと——多少どころじゃない、かなりやはりおくられているんじゃないか。

最近特に目立つことは、かつては部活動の中の顧問の先生というのはかな

り専門の人が専門に当たったんですけども、いろいろ最近では学校運営、教育指導の中でもって必ずしも野球の専門の人が野球の顧問にならない。サッカーの専門の人がほかをやるというような形でもって、何かそういうのが非常に目立ってきているようなふうに思われるわけでございます。

それからもう一つは、中学校の部活動の中についても、20年ぐらい私が市議員になった当初のころにはかなり学校の教職以外の人を頼んで、そして専門的な指導なりコーチというものがなされて専門的に行われたというケースがあったわけでございますけど、最近そういうケースもかなり少なくなってきた。これはかつてはそういったコーチや何かの費用というのは市の方じゃなくてPTA会費だとか部費の方でも取っておったものですから、そこら辺について余り父兄の父母負担を軽減という形でもって、市の方の金の中でやるとなるとそういったコーチの礼とかそういうものは出せなくなってきたというようなこともあるんじゃないか。かつて私は大学時代と卒業したころは中学校の野球の指導に顧問ということでもって行って、多少の――弁当代までいかないんですけど、気持ちだけの謝礼等もらいながらも一生懸命やった時代もあったわけでございまして、私教えた学校の野球は安房郡で優勝するところまで行ったところもありますけども、そういうのが幾つかやったり野球だけじゃなくてほかの分野でもあったようでございます。最近はそのようなものもないようでございますけども、ここら辺のやはり指導体制はどうなのか。

この振興費の中で――やっぱりスポーツは何といても――私は小中のスポーツの振興については一番問題なのは指導者がどれだけ優秀であるか、科学的な指導をするのかということがもうかなりの決定的な要因だということに思います。これがよければもう優秀な選手は出てくるし、事故もかなり防げるというふうに思うわけでございますけども、なかなか野球の人がバスケットを教えたりなんかするということになってくると事故も多いし、技術力も上がらないというようなことが往々にして出てくるんじゃないかというふうに思うわけでございまして、そういうところの無理がやはり今の教育の人事の中でもってなかなかうまくいかないという点もあろうかと思っておりますけど、

それらの補完は指導者をやはり体育振興費という中で補って、やはり指導者制度をきちんと確立して中学校の中にもそういう導入の必要もあるんじゃないかと思うんですけども、そこら辺についてどうなのか、お伺いしたいわけでございます。

次に、132ページでございますけれども、体育協会の補助金でございます。517万円が計上されているわけでございますけれども、これも中学と同様でございますして、最近やはり県民体育大会の成績が不振である。この10年間とっても、剣道とか弓道とか優勝したことはございますけれども、優勝しても総合種目では全体の中のけつの方から10番目以内を抜け出せないということでございまして、総合的にはかなりやはりおくらしている。もう少し成績を上げる方策を考えなきゃいけないんじゃないかと思えますけれども、どうもこの補助金の経営団体の体育協会そのものがかなりマンネリ化しているんじゃないか。私も体協の理事を15年近くやっておりましたけれども、どうもかわりばえはしないし、同じことをもう繰り返し、繰り返しているし、体協の役員も非常に老齢化してしましまして、県下でも非常に老齢化が進んでおりまして、全く変わらない、こういうことでかなり批判も出てきているわけでございますけれども、ここら辺についてはこのままの形でもって毎年毎年同じような形でもって補助金出しておいていいのかなのか。もう少し体協の体質改善、そしてまた競技力のレベルアップ、さらには体協の主要な目的である指導者の養成、指導者バンク、こういうものの確立ももう4年、5年とやっているけれども、なかなかそういうのができないという中でもってもう少しここら辺について検討をする必要があるんじゃないか。500万の金が少なければやはり効果の上がるような形でもってもう少し補助金の交付についてふやすなり検討していかないといけないんじゃないか。三、四年前に半澤市長は国体の視察に私どもと一緒にいったんですけども、何やっているんだ、館山の中でもって、水泳なんかの場合にエントリーされているけれども、何か出場辞退というんですか、出てきてひどいじゃないか、こんなことだったら補助金なんかやるななんていうことでもってえらく怒ったこともございますけれども、何か出りゃいいというような格好の中でもってマンネリ化されて

いるところもあるようでございますので、もう少しやっぱり強くなるような形でもってこの補助金についてはやられる必要があるんじゃないかと思うんですけども、実際にはどのような形でもってどのようにそういった面について対処されておるのか、お伺いをしたいと思います。

長くなりまして申しわけありません。最後になりますけど、33ページ、収入の面でございます。12款2目1節基金利子でございますけども、10項目の基金の繰り入れがあるわけでございます。総額2億 5,591万円でございます。最近この基金の運用が非常に問題になっております。館山市も約30億近くの基金積み立てがあるわけでございますから、この運用益をめぐりまして警察共済会だとか教育共済会等が証券に手を出して大変なやけどをして今大問題にもなっているわけでございますけども、館山市はそういうようなこともないだろうし、また市民の中ではそうした基金の運用がどうなっているのかということで非常に心配な面もあるわけでございますので、この利子収入2億 5,591万円これはどういう形でもって運用というんですか、保管され、どういう金融機関に預けられて、そしてどういう形の利子が入ってきているのか、これについて大枠で結構でございますから――定期預金だとか、普通預金だとか、いろんなあるわけでございますし、また国債だとか、債券だとか、証券を買っておれば証券もというようなことで、どのぐらいの割合か、そういう面についてひとつ利子の入ってくるものがどういうものか、少し大枠でもってわかるようにひとつ御説明をしていただきたいと思います。

以上、御質問申し上げます。

◎議長（福原 勤君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開いたします。

午前11時48分 休憩

午後 1時03分 再開

◎議長（福原 勤君） 午後の出席議員数26名、休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁をお願いします。

庄司市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長（庄司 厚君） 先ほどの辻田議員の御質問にお答えいたします。

13節の委託料についての御質問でございますが、コミュニティセンター周辺利用計画策定業務につきましては、該当地のデータ等を所有している理由から、平成2年10月に東京の株式会社山下設計に委託いたしました。コミュニティセンター敷地を縦断する主要地方道館山白浜線バイパスの建設に伴い、コミュニティセンター東西広場へのアクセス方法等について千葉県及び千葉県警察本部と早急に協議する必要性から利用計画を策定したものでございます。

また、富士ディーゼル跡地利用計画策定業務につきましては、県企業庁と協議を重ねる中で具体的な案がないと検討することができないとの指摘があり、跡地の一括購入の回答期限から大至急計画を策定する必要がございました。このため、県からの受託実績もあり、この時点でも企業庁から南地域の開発調査を受託し、館山市周辺のデータ等を保有していた東京のシステム科学コンサルタンツに平成3年2月に委託いたしました。策定されました案は、インダストリアルパーク計画を補完する企業の研修保養施設及び海洋レジャー施設の複合施設となっており、4月に入りまして県企業庁に提出し、企業庁事業として取り上げてくれるように検討をお願いいたしました。

次に、御質問の19節の負担金、国際民族音楽フェスティバル、これにつきましては教育長より答弁いたします。

次に、地域ぐるみ福祉ネットワーク事業補助金についての御質問でございますが、地域ぐるみ福祉ネットワーク事業とは、地域福祉圏を設定し、社会福祉協議会を推進母体として、住民参加により、行政機関、社会福祉施設、ボランティア活動等を効果的に結びつけ、地域の福祉需要にきめ細かく対応することのできる福祉のシステムづくりを進めることとでございます。まず、地域住民の自主的な参加による小中学校区を単位とする小域福祉圏、各種福祉サービスの基本となる市町村を単位とする基本福祉圏、さらに高度な福祉事業に対応する支庁を単位とする広域福祉圏、これらの三層福祉圏が有機的に連携し、地域ぐるみ福祉を総合的に推進しております。小域福祉圏の構成

員につきましては、民生委員、母子福祉推進員、青少年相談員等の制度ボランティア、町内会、老人クラブ等の方々でございます。

次に、地域ぐるみ福祉ネットワーク事業補助金の内訳につきましては、地域ぐるみ福祉ネットワーク推進職員設置事業、地域ぐるみ福祉ネットワーク推進運営事業、ボランティア傷害保険事業、ボランティア活動促進事業の4つの事業補助でございます。地域ぐるみ福祉ネットワーク推進職員設置事業は、社会福祉協議会職員1名分の人件費補助、地域ぐるみ福祉ネットワーク推進運営事業は基本福祉圏と15の小域福祉圏に要する事業の補助でございます。ボランティア傷害保険事業は、180人のボランティアに対する傷害保険の補助、ボランティア活動促進事業は給食サービス、声の広報等の活動に要する事業の補助でございます。このように公私協働により社会福祉協議会を中心として住民参加による地域の福祉需要にきめ細かく対応し、効果を上げております。

次に、豊房育成牧場の委託料についての御質問でございますが、昭和58年10月から安房郡畜産農業協同組合に委託し、効率的な管理運営を図っているところでございます。平成2年度の預託牛は延べ1,200頭で、委託料については2,637万3,231円を支出しております。預託の定数につきましては、平成3年度上期600頭のところ599頭が入牧しております。今までの実績を見ましても月100頭が適当と思われます。また、維持管理につきましては、市と畜協との協定書に基づきその都度協議、解決してまいりましたが、今後も連携を密にし、良好な管理運営に努めてまいりたいと存じます。

次に、インダストリアルパークについての御質問でございますが、インダストリアルパーク基本計画につきましては昭和62年度に実施した産業振興基礎調査等を踏まえ、新たな企業誘致による産業の振興を図るため、と同時に千葉県がさわやかハートちば5か年計画を策定中であり、館山市の意向を踏まえて県事業として計画に位置づける旨の内諾をいただいておりますので、市としての考え方を明確にし、事業の早期実現を図るために策定いたしました。調査の内容といたしましては、計画対象地域の状況分析、開発整備の方針、開発計画区域内の土地利用計画、造成等の工事に関する基本計画及び事

業計画などでございます。この計画策定に当たりましては、地元代表、県の関係機関等で組織した計画策定委員会を設置して意見を伺いながら策定いたしました。したがって、現在千葉県企業庁が進めている事業計画の中で生かされていくものと考えております。

次に、商工会議所物産会館建設促進補助金についての御質問でございますが、地場産業の体質強化、振興策を推進するための総合的振興機能と施設を備えた拠点としての必要性から、商工会議所内に組織されております観光物産展示場管理運営委員会が主体となり、物産会館の建設を目的に調査研究や先進地の視察等実施しているところでございます。館山市といたしましては、この事業に対し平成元年度から3年度までの3カ年にわたって助成をしているところでございます。

次に、13節の委託料、城山公園、中央公園についての御質問でございますが、公園維持管理委託料の内容といたしましては城山公園梅園管理委託、樹木病虫害防除委託及び北条中央公園管理委託でございます。城山公園梅園の剪定、病虫害防除及び施肥等につきましては、専門的知識を必要といたしますので造園業者を対象として入札を行い、有限会社アサヒ造園にその業務を委託したものでございます。

また、北条中央公園の管理につきましては、公園全体の管理体制と調整を図りながら、清掃、草花の植栽、除草、芝刈り等の業務を入札の結果、株式会社マスヤ館山支店に委託したものでございます。なお、7カ所の公園管理につきましては、公園職員によりごみの収集運搬、トイレ清掃、樹木の管理等、全般的な業務を行ったところでございます。

次に、御質問の備品購入費、校用器具費につきましては、教育長から答弁いたさせます。

次に、小中学校体育振興委託料につきましても、同様教育長から答弁いたさせます。

次に、補助金といたしまして体育協会補助金につきまして、これも教育長から答弁いたさせます。

次に、1節の基金利子についての御質問でございますが、運用件数は144

件でございまして、そのうち指定金融機関等市内の金融機関に大口定期預金
が運用件数で 118 件 82%、運用による利子の割合では 69.5%のほか、開発公
社への貸し付け等が 8 件で利子の割合は 22.8%、国債 6 件分で利子の割合は
6.6%、債券現先 12 件分で利子の割合は 1.0%となっております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） お答えいたします。

19 節の負担金、国際民族音楽フェスティバルのことですが、国際
民族音楽フェスティバルは、館山市、館山市教育委員会、国際民族音楽フェ
スティバル実行委員会の 3 者の共催によりまして行われております。その事
業収支につきまして御質問でございますが、収入といたしまして市からの負
担金が 500 万円、チケット収入が 446 万 2,500 円、協賛金が 1,000 万円、そ
の他の収入が 28 万 9,905 円、前年度繰越金が 119 万 9,627 円、合計 2,095 万
2,032 円でございます。支出は総事業費といたしまして 2,039 万 3,816 円、
収入支出差引残高 55 万 8,216 円でございます。なお、残金につきましては、
次年度事業に充てるため繰越金となっております。

次はページ 118、18 節の備品購入費、校用器具費、小中学校の問題でござ
いですが、学校への配分はどうなっているか、またその種類はどういうもの
か、こういう御質問でございますが、小中学校とも基本的には児童生徒数及
び学級数による学校規模に応じて予算を配分いたしておりますが、印刷機、
裁断機等の主な校用器具費につきましては、学校長の要望を検討しながら予
算配分をいたしております。

なお、机等中途半端な購入の仕方をして十分教育効果は得られないんじ
ゃないかというような御質問でございましたんですが、そういうことはなくて
やはり必要なものは全部一括してその学校に購入して差し上げております。

購入は計画的に行われているかというようなお話でしたんですが、購入は
計画的に行われておりまして、学校長等の要望を十分に考慮しながら進めて
おります。

次にページ 131、13節委託料、小中学校体育振興費の問題でございますが、小中学校の体育の振興につきましては従来から各種目の専門部の充実と競技力の向上を図るために努力してまいりました。平成2年度における県中学校総合体育大会の主な成績は、団体戦では柔道男子で館山一中が3位、剣道男子で館山三中がベスト8、バレーボール男子では館山二中がベスト8、卓球女子で館山二中が優勝となっております。また、個人の部におきましては、剣道男子の部で館山二中が準優勝、卓球女子ダブルスの部で館山二中が優勝しており、関東大会には卓球の部で館山二中女子団体のほか、個人といたしまして館山二中女子3名、館山三中男子2名が出場しており、一応の成果を得られたものと考えております。

なお、学校によっては専門の指導者はいないんじゃないかというような御指摘でございましたんですが、やはりこの問題につきましては御指摘のとおりいない学校もございます。といいますのは、人事は学校の教育効果を高めるために行われているんでございまして、運動の指導者をどうのこうのということは第二の問題として考えて人事を行われておりますものですから、できるだけ各中学校の要望を聞きながらその要望に応ずるように努力いたしておりますけれども、それがかなわない場合もあります。

また、なお外部から指導者を見つけたらどうかというような御指摘もございましたんですが、やはり中学校の指導はなるべくだったならば学校の先生の方が、生徒指導、あるいはその他の学校の行事等を考えますとやはり学校の先生の方がよろしいんじゃないか、このように考えております。

それからページ 132、19節補助金、体育協会補助金の問題でございますが、平成2年度加盟団体は20団体となっております。県民体育大会には18種目 299人の選手が参加し、剣道優勝、相撲3位、銃剣道5位、弓道6位、バレー6位、男子卓球ベスト8、33郡市中16位の成績をおさめております。本年度ゲートボール連盟の加盟により加盟団体数は21団体となり、より充実した活動が期待されております。

なお、体育協会の活動がマンネリしているんじゃないかという御指摘がございましたんですが、マンネリ化ということはこのような団体の一番いけな

いことでございますから、私たちもよく体育協会の会長、副会長、理事等ともよく協議しながらマンネリ化の打破に努めていきたい、このように考えております。

また、指導者が少ないんじゃないかという御指摘でございましたんですが、まさしくそのようございまして、指導者を見つけるのに大変苦労しておりますけれども、やはりこれも今後の問題として考えていかなきゃならない、こう考えております。

体育協会の競技力の向上が余り見られないんじゃないかというような御指摘もあったんでございますけれども、確かに代表選手の活躍はそれほど拔群のものと考えられておりませんけれども、やはりその原因は選手の高齢化ということが一番大きな悩みになっているということを体育協会の役員から聞いております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 聞きたいこともございますけれども、特別委員会設置されましてその中でもって十分審議されるだろうし、余りここで詰めちゃいますとまた半端になりますので、私は二、三のことについてだけお伺いしたいと思います。

一つは、具体的にはコミュニティセンター周辺の利用計画の策定書というんですか、計画策定書、それから富士ディーゼル跡地の計画策定書並びにインダストリアルパークの基本計画書、これできておると思うんですけども、これは私どもには見せていただけないものなんでしょうか、これをまず第1点聞きたい。答弁願いたいと思います。

それから、2番目に教育費の中の備品購入費でございするけれども、この備品購入費はそれぞれ40万なり何がしの残金をかなり出しておるわけなんです。しかしながら、管理費の方の備品購入費は残金がゼロなんです。これ毎年のことなんですけども、どうしてこの備品購入費の方は1割近くになる不用額というんですか、これが出るのか、その点についてお伺いをいたしたいと思います。

まず、その2点についてお願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） ただいま御質問のあった3つの委託の關係につきましてはごらんいただいてよろしゅうございます。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 備品購入費がいつも残っているじゃないかというような御指摘でございますけども、これは購入の技術上の問題だと私は考えております。各学校からの要望はそれぞれ違っておりまして、若干額等において実際の購入するとき何か価格が安くなったとか、そういうことによって予定のものを購入しておりますけども、それが余ったという現象になっているんじゃないかと思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 私はおおむね了承したいと思いますけど、細かくはひとつ特別委員会にいたしまして、最後にスポーツの振興でございますけども、教育長としてみればこの本会議上の席でもって不十分だというわけにはいかないだろうし、非常にきついことはわかっております。それで、お互いにみんな日常話の中ではもう少し力でもって——私以上にもっと館山市を活発ですか、強くしたいというのは山々だろうし、また非常にそれが思うようにいなくていらいらしていると思うわけでございますけども、それはそれといたしましてひとつ市長もスポーツマンだということが売り物であるわけでございますから、ひとつスポーツはやはり勝たなきゃなりませんし、また記録はよくしなければこれはもうスポーツになりませんので、スポーツと遊びというのはこれはもう全然別ですから、遊びなら別ですけども、これはもうスポーツはスポーツですから、そういう面でひとつよろしく願いたい。

ただ、私が午前中の質問の中でもって体協の役員が非常に高齢化して云々ということを申しましたけども、高齢化云々ということは言葉としては余り穏当じゃないような気もいたしますので、この点についてはひとつ削除して

おいていただきたい。現実には現実で教育長言いましたようにマンネリ化して改革はしなきゃならないだろうということはお互い認め合っているところでございますから、そういうところでもって言葉は余りいいようじゃございませんから、ここら辺の部分についてはひとつ訂正だけはいたしておきたいと思いますので、よろしくお願いします。

以上述べて終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

ただいま議題となっております認定第1号乃至認定第7号平成2年度各会計決算につきましては、10人の委員をもって構成する決算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することにいたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

重ねてお諮りいたします。ただいま設置されました決算審査特別委員会委員の選任については、委員会条例第5条第1項の規定により、

1 番議員 秋山 光章君	2 番議員 増田 基彦君
7 番議員 鈴木 順子君	8 番議員 永井 龍平君
11 番議員 山崎 雅己君	15 番議員 山中金治郎君
16 番議員 鈴木 勝美君	18 番議員 日下 君敏君
25 番議員 流山源次郎君	27 番議員 横溝 功君

以上、10名を指名いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、ただいま指名いたしました10人の諸君を決算審査特別委員会委員に選任することに決しました。

ただいま選任されました決算審査特別委員会委員の方々は、後ほどこの議場において正副委員長の互選を行いますので、御了承願います。

延 会 午後1時33分

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明21日から29日まで委員会審査のため休会、次会は9月30日午前10時開会といたします。その議事は、議案第32号乃至議案第40号、認定第1号乃至認定第7号等にかかわる委員会における審査の経過及び結果の報告、討論、採決並びに追加議案の審議といたします。

この際、申し上げます。各議案に対する討論通告の締め切りは9月30日午前9時でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 認定第1号乃至認定第7号

1 決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

